



▲令和5年12月2日に行われた「ライトアートin折立」。地域の方々の思いが結集した光が会場を彩りました

古今東西  
くんくん  
行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪らし  
市民の皆さまの活動の様子な  
どをお伝えします

折立地区で地域活性化に取り組む「折立素敵物語実行委員会」などの皆さんにお話を伺いました。

**世代を超えた交流の場**

毎年12月に折立公園で開催される「ライトアートin折立」をご存じですか。令和元年に始まったイルミネーションイベントで、その開催の中心となっているのが「折立素敵物語実行委員会」の皆さんです。実行委員長の岩松健雄さんは「地域の方々に折立に愛着を持ってもらおうと、平成28年度に住民有志で実行委員会を発足させました。当初は、小学校で出前授業を行い、地域の歴史や魅力を伝えていきましたが『光を使ったイベントで折立をにぎやかなまちにしたい』という子どもたちからの提案で、ライトア

トを始めました」と教えてくれます。元々折立地区には、地域の運動会等

**思い込めて照らすピカボード**

ライトアートでは、地域の子どもたちが絵付けしたペットボトルランタンや、発泡スチロールにLED電球を配置して作る電光板「ピカボード」が会場を彩ります。ピカボードの発明者で、製作をサポートする尚綱学院大学名誉教授の阿留多伎眞人さんは「ピカボードをきっかけに、人と人とのつながりが広がってきてうれしい。住民同士の関係性が良くなることで、地域としてまちづくりへの意識が高まっていくと思います」と話します。

この日は、折立小学校6年生によるピカボードの製作の様子を見学。熱心に取り組む姿からは、イベントを成功させたいという気持ちがひしひしと伝わりました。大友雄一郎校長は「子ど

もたちは、自分たちの提案がまちの幸せにつながることを体感して、主体的にイベントに関わっています。将来的にもこの地域を盛り上げてくれると感じています」と力強く話してくれました。

「来年は何をプラスしようか考えるのが楽しい」という岩松実行委員長の言葉にうなづく皆さん。副実行委員長の吉田隆さんは「将来どう発展させていくかが課題。あらゆる世代を巻き込み、折立自慢のイベントとして成長させていきたい」と意気込みを語ります。

ライトアートを、そして地域をより良くしようとする皆さんの姿勢に、折立への深い愛情を感じました。

**未来へつなぐ、折立の輪**

地域のつながりが希薄化していると言われる中、コロナ禍を乗り越え、折立のために継続的に活動されている皆さん。世代間の交流は、にぎわいをもたらすだけでなく、顔の見える関係性が構築され、災害時などにも助け合える安心なまちづくりにもつながります。

これからも「素敵」な折立であり続けることを期待しています。



▲私も一緒にピカボードの製作に挑戦しました



▲上段：左から小原館長、大友校長、向井さん、阿留多伎さん。下段：左から岩松さん、市長、吉田さん

